

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2012～2016

課題番号：24401038

研究課題名(和文)中国南部地域のムスリム宗族に関する総合的調査と比較研究

研究課題名(英文)A Study of the Muslim Lineage in Southern China

研究代表者

王 柯(Wang, Ke)

神戸大学・国際文化学研究所・教授

研究者番号：80283852

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：中国南方の複数の地域においてムスリム宗族を調査し、現地と中国、台湾、香港、アメリカの図書館、資料館で多くのムスリム宗族の族譜、なかにかつて外部に知られなかった族譜と失う直前の族譜も含まれる)を入手し、それに基づいて研究を行い、研究結果として三冊の研究報告書、一冊の学術書、複数の学術論文を公表し、本来祖先崇拜に否定的であるイスラームの信仰者たちは、中国においてムスリム宗族を結成した原因と意義を究明した。またこの研究を通じて、二回の学術シンポジウムを開催し、中国、台湾、香港の学者との研究ネットワークを形成した。

研究成果の概要(英文)：We surveyed a lot of Muslim Lineages in Southern China, and Collect a large number of genealogies(family's breeding book), including many that have never been published before. We have achieved some research results, including three copies of the report, An academic book and several research papers. We hold two academic international symposiums, established the research network of scholars in China, Taiwan and Hong Kong, and find out the reason and meaning of Muslim clans in Southern China, even the Islamic doctrine against ancestor worship.

研究分野：歴史学、人類学

キーワード：ムスリム 宗族組織 族譜

1. 研究開始当初の背景

本研究は、中国のムスリムである「回族」と中国伝統社会の根幹をなす「宗族」という2つの基本コンセプトを持ち、それに関連する研究開始当初研究動向もこの2つの側面から見る事が出来た。

日本の中国の回族に関する研究は、主にイスラームの思想と動きの研究に集中する。こうした先行研究は、「回族」の宗教的特徴を理解する上で重要であるが、しかし長い歴史を持ち、人口が1300万以上に上り、中国全土に広く分布する「回族」の「民族的」特徴を理解する上で、時代的、地域的限界が感じられる。つまり、近代の「回族」という民族的アイデンティティを作り出した主人公たちは「回族」が集中して居住する中国西北部の甘粛・寧夏ではなく、中国南部出身のムスリムだったにも関わらず、この地域のムスリムに関する研究は皆無であった。日本の状況とほぼ同じであるが、欧米と中国の「回族研究」も中国西北部にしか関心を持たず、中国における「回族研究」もほかの国の学界以上に西北部に重心が傾いている。本研究にとって、西北の回族の経済と文化変容・社会変容についての研究は重要な啓示を提供しているが、西北部地域、そして他者を区別する基準ともなるイスラームの視点だけでは、「回族」が中国社会へ溶け込んだ内在的要因を説明することができないと強く感じる。

中国の宗族に関する研究は、20世紀に入って近代的な社会科学の知識が中国に紹介されてから始まったにもかかわらず、中国社会の本質の解明、行方を分析するもっとも有効な手法として注目され、とくに林耀華、鄭振滿、張研を代表とする中国の人類学者、イギリス人研究者モーリス・フリードマン (Maurice Freedman)、香港中文大学のデヴィッド・フォール (科大衛 David Faure)、瀬川昌久を代表とする日本の人類学者がそれぞれ大きな功績をあげている。本研究はこれらの中国南方の宗族に関する先行研究の成果を踏まえて始めたものといえる。しかし残念ながら、これらの人類学者による宗族研究は、ムスリムの宗族について研究せず、宗族制度の影響によってムスリムの中国化が遂げたという事実にも注目しなかった。

以上の先行研究に比べ、本研究の最大の特徴は、中国の多文化社会が形成する回路の究明を意識し、宗族研究の手法を「回族」というムスリム社会に対する研究に導入することである。研究対象を具体的な「回族村」に絞ったため、伝統意識が強い農村社会についてのフィールドワークを通じて、中国のムスリムが抱えている現実問題、とそれに対処する彼等の営みと知恵をリアルに把握し、よって回族の本質に迫り、いままでの回族研究に

よく見られた宗教的な側面への偏重によってもたらされた不足を解消し、「中国のムスリム社会」という本質の解明に一步近づくことができる。

2. 研究の目的

中国南部地域のムスリム社会を対象とする本研究は、複数の「回族村」に対するフィールドワークを通じて、族譜などの歴史資料を手がかりに、さらに中国南部の漢族または「客家」社会、そして各「回族村」間の比較を通じて、1,中国南部のムスリム社会でなぜ漢民族社会と同様に「宗族」が形成され、その機能はなにか;2,ムスリム社会の「宗族」は、その組織構造、構成要素が漢民族や客家の宗族に比べ、いかなる特徴を持ち、そうなった原因はなにか;3,宗族が形成する歴史的プロセスにおいては、イスラームの理念との矛盾がいかにか解消・解釈・処理されたのか;4,人民共和国時代になって「回族」として「民族」の認定を受けてから、文化大革命以前と以降、また改革開放期など各時期において「宗族」と「民族」との関係がいかにか認識され、使い分けられたのかを研究し、中国南部における多文化社会形成の特殊な回路及びその社会的意義を明らかにすることにある。

3. 研究の方法

本研究は、1,地域社会の多元性、2,宗族と地域社会の連動性、3,宗族内の秩序と生業形態・宗族共有財産との関連性、4,宗族の構成要因にあるイスラーム的特徴という四つの側面から、中国ムスリムの宗族の構成原理と特殊性を全方位かつ歴史的に検証し、本質の究明に努める。具体的な方法は主に次の二つである。1,宗族を囲んでいる地域社会、宗族の現状、祠堂・祖廟・共同墓地・祭祀と儀礼など宗族の象徴を対象にフィールドワークを実施。2,そこで得られた宗族(分枝)の族譜、各時代の土地売買や小作賃貸契約書、政府による判決、宗族間または宗族内部の仲裁書、各種の「族規」など歴史文書の研究。

4. 研究成果

本研究は外来者であるムスリムの漢人地域における「入住権」の獲得と「現地化」の実現における「宗族」の形成が果たした役割を注目し、各地域における中国ムスリム宗族に対する調査と同時に、古い族譜の収集に力を入れてきた。これまで、『懷寧馬氏宗譜』(15巻)、『江蘇如臯沙氏世系略述』、『毘陵沙氏宗譜』、『江蘇吉安麻氏親親余事』、『江蘇江陰暨陽沙氏宗譜』(22巻)、『江蘇江陰明氏(沙氏)族譜』、『浙江蕪興穆氏後穆宗譜』、『江西会昌湘南馬氏家乘』(5巻)、『江西万載馬氏宗譜』、『江西余干王馬二宗譜』、『廣東宝安馬族譜志』、『廣東宝安馬族譜志』、『廣東宝安馬族譜志』、『廣東廉使家風馬氏族譜』、『廣東廉使家風馬氏族譜』、『廣東順德楊容馬氏宗譜—台山馬氏族譜』、『湖北黃岡馬氏宗譜』、『湖北鈣陽

馬氏族譜』、『湖北武昌馬氏族譜』、『湖北英山馬氏宗譜』、『安徽懷寧高河馬氏宗譜』、『桐城扶風馬氏族譜』、『連城四堡馬氏大宗族譜』(35卷+3卷)、『江西贛縣馬氏重修族譜』、『銅鼓馬氏族譜』、『江西宜春馬氏宗譜』、『雁門薩氏家譜』、『薩氏家譜』、『河北東光馬氏家乘』、『豐潤馬氏家譜』、『河北清縣崇倫堂馬氏宗譜』(23卷+1卷)、『湖南常德桃源馬氏續修族譜』、『湖南寧鄉馬氏五修族譜』(9卷+1卷)、『湖南醴陵馬氏五修族譜』、『湖南瀏東扶風堂馬氏族譜』、『瀏陽馬氏支譜』、『邵陽馬氏四修族譜』、『河南光州馬祖常世譜』、『洛陽馬氏家譜』、『杞縣馬氏族譜一馬氏世系』、『廣東大埔郭氏族譜』、『廣東南雄郭氏族譜』、『廣東平遠南載郭氏族譜』、『中山良都竹秀園郭氏家譜』、『廣東清遠郭氏族譜』、『武昌白氏宗譜』、『河南光州馬祖常世譜』、『洛陽馬氏家譜』、『杞縣馬氏族譜一馬氏世系』、『海南瓊山海氏族譜』、『安徽宿嶺魯氏宗譜』、『江蘇鎮江米氏家譜』、『河南密縣米氏族譜』、『蒲氏族譜』、『江西吉安南陽白氏族譜』、『北京白氏族譜』、『晉嶺白氏宗譜』、『福建安溪白氏非與同安之淵源史考』、『台灣宜蘭阿姓(前川)家譜』、『江蘇無錫安氏族譜』、『江西泰和安氏四修族譜』、『山東博興灣頭鎮安氏世譜』など、かつて未公刊のムスリム族譜を大量に収集し、なかに断片的になり、消える寸前の貴重なものも含まれている。

これらの族譜を利用して、本研究は「入居権」や「祖先の権利」の主張において「宗族」の存在が非常に重要であること、入居権獲得のための「宗族化」以前に「農業化」と「現地化」(地域社会への貢献)、「宗族」の創出期に必要とする「漢化」(名前の編成法など)、「宗族」の成立以降の「科挙化」(完全に「中国人」となる)というプロセスを明らかにし、ムスリム社会の宗族化と科挙試験への参加との関係、科挙試験への参加と漢化との間にある緊密な関係を立証し、祠堂を中心とする宗族内部における共有財産の成立と変遷の原因を検討し、ムスリム宗族による祭祀儀式的文化記号の変遷プロセスを分析し、漢人やほかの少数民族の宗族組織と共通性と相違点を明らかにし、そして中国のムスリム社会における宗族の形成は彼らが当時直面している中国社会と地域との間に緊密な連動性があったことを把握し、本来祖先崇拜に否定的であるイスラームの信仰者たちは、中国においてムスリム宗族を結成した原因と意義を究明し、また「宗族化」は事実上「漢化」だけで見ることができず、それは中国における多文化社会の形成回路でもあることも明らかにした。

その研究結果として、本研究は三冊の研究報告書、一冊の学術書、複数の学術論文を発表し、またこの研究を通じて、二回の学術シンポジウムを開催し、中国、台湾、香港の学者との研究ネットワークを形成した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

王柯「伝統」はどこまで遡れるものか - 中国南方の「回族」社会におけるイスラームへの「回帰」, 千葉商科大学経済研究所 View & Vision 41、2016 年 4 月、24 - 29 頁。

王柯「許されなかった「民族」の叫び 帝国主義日本による「回教空間」と東アジアのトルコ・タタール人」神戸大学『国際文化学研究』第 46 期、1-30 頁、2016/07

王柯「「回教圏」的幻影 日本侵華戦争與伊
斯蘭空間的虚構」、台湾国史館『国史研究
通讯』第 10 期、2016 年 6 月、52 - 63
頁。

石原享一「新疆ウイグル自治区の経済構造：
国家と市場と多民族のトリレンマ」、『北
海商科大学論集』6(1)、23-58 頁、2017
年 2 月

王維「記憶・構築された『回』の時空間 泉
州地域百崎回族郷を事例として」、『21 世
紀東アジア社会学』8、36 - 56 頁、2016
年 8 月

〔学会発表〕(計 5 回)

(1) 王柯「中国南方ムスリムの宗族形成と科
挙参加」、2014 年 11 月 26 日、科学研究費助
成事業基盤研究 B「中国南部地域のムスリム
宗族に関する総合的調査と比較研究」第一回
国際学術シンポジウム「中国南部地域のムス
リム宗族の成立と発展」にて、神戸大学国際
文化学部

(2) 山田勅之「木氏族譜はどうしてできたの
か 中国ムスリムとの比較」、2014 年 11 月
27 日、科学研究費助成事業基盤研究 B「中国
南部地域のムスリム宗族に関する総合的調

査と比較研究」第一回国際学術シンポジウム
「中国南部地域のムスリム宗族の成立と発展」にて、神戸大学国際文化学部

(3)王維「記憶、構築された『回』の時空間」
科学研究費助成事業基盤研究 B「中国南部地域のムスリム宗族に関する総合的調査と比較研究」第二回国際学術シンポジウム「中国南方ムスリム宗族の社会的特徴と意義」
2015年11月18日、神戸大学国際文化学部

(4)潘宏立「福建省南部農村ムスリム宗族組織の現状研究 泉州市杏宅回族村の宗族を中心にして」科学研究費助成事業基盤研究 B「中国南部地域のムスリム宗族に関する総合的調査と比較研究」第二回国際学術シンポジウム「中国南方ムスリム宗族の社会的特徴と意義」2015年11月18日、神戸大学国際文化学部

(5)王柯「「官」を巡る語り 中国南方ムスリムの宗族化と公共性」科学研究費助成事業基盤研究 B「中国南部地域のムスリム宗族に関する総合的調査と比較研究」第二回国際学術シンポジウム「中国南方ムスリム宗族の社会的特徴と意義」2015年11月19日、神戸大学国際文化学部

〔図書〕(計 1 件)

王柯『「国民」の消失 近代中国的「民族」
話語と少数民族的国家認同』、香港中文
大学出版社、2017年12月、365頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者
王柯、(WANG, Ke)
神戸大学・大学院国際文化学研究科・教授
研究者番号：80283852

(2)研究分担者
石原享一 (ISHIHARA, Kyouti)
北海学園大学商学部・教授
研究者番号：60283850

研究分担者
王維 (WANG, Wei)
長崎大学多文化社会学部・教授
研究者番号：10322546

研究分担者
潘宏立 (PAN, Hongli)
京都文教大学・文化人類学科・教授
研究者番号：20321060

研究分担者
山田勅之 (YAMADA, Noriyuki)
大阪成蹊短期大学・観光学科・准教授
研究者番号：40582995

(3)連携研究者

研究者番号：

(4)研究協力者 ()